

令和7年度

出水高校シラバス

(3年生用)

鹿児島県立出水高等学校

令和7年度 出水高校シラバス（3年生用） 目次

		ページ
	教育課程表	1
国語	論理国語	2
	古典探究	4
地理歴史 ・公民	地理探究	6
	日本史探究	9
	世界史探究	11
	政治・経済	14
数学	数学Ⅱ	16
	数学Ⅲ	18
	数学A	20
	数学B	22
	数学C	24
理科	物理	26
	化学基礎	30
	化学	31
	生物基礎	34
	生物基礎	36
保健体育	体育	38
芸術	音楽Ⅲ	40
	美術Ⅲ	42
	書道Ⅲ	44
外国語	英語コミュニケーションⅢ	46
	論理表現Ⅲ	48

高校名（ 出水高校 ） 大学科（ 普通科 ） 小学科（ 普通科 ）

			必修	標準 単位	令和5年度入学						計		備考
					1年	2年		3年					
					共通	文系	理系	文系	理系	文系	理系		
各学科に共通する各教科・科目	国語	現代の国語	◎	2	2					2	2		
		言語文化	◎	2	3					3	3		
		論理国語		4		3	2	3	2	6	4		
		古典探究		4		3	2	3	3	6	5		
	地理歴史	地理総合	◎	2	2					2	2	(共通) ・2年次において選択した科目を、3年次に継続履修する。	
		地理探究		3		②	②	④	③	0,6	0,5		
		歴史総合	◎	2	2					2	2		
		日本史探究		3		②	②	④	③	0,6	0,5		
		世界史探究		3		②	②	④	③	0,6	0,5		
	公民	公民	◎	2		2	2			2	2		
		政治・経済		2				3		3	0		
	数学	数学Ⅰ	◎	3	3					3	3	(共通) ・1年次において、数学Ⅰを履修後、数学Ⅱを履修する。 (理系) ・2年次において、数学Ⅱを履修後、数学Ⅲを履修する。	
		数学Ⅱ		4	1	3	3	②		4,6	4		
		数学Ⅲ		3					5	0	5		
		数学A		2	1			1	1	2	2		
		数学B		2		1	2	1		2	2		
		数学C		2		1	1	1	1	2	2		
	理科	科学と人間生活	◎	2	2					2	2	(理系) ・「物理」、「化学」、「生物」は、それぞれに対応する基礎を付した科目の履修後に履修可能。 ・2年次に選択した科目を、3年次に継続履修する。	
		物理基礎		2			②			0	0,2		
		物理		4			②		④	0	0,6		
		化学基礎	◎	2		2	2	2		4	2		
		化学		4			2		4	0	6		
		生物基礎		2		2	②	2		4	0,2		
	保健	生物		4			②		④	0	0,6		
		体育	◎	7-8	3	3	3	2	2	8	8		
	芸術	保健	◎	2	1	1	1			2	2	(文系) ・2年次において、各科目のⅡを履修できるのは、1年次において各科目のⅠを履修していた生徒に限る。 ・3年次において、各科目のⅢを履修できるのは、2年次において各科目のⅡを履修していた生徒に限る。	
		音楽Ⅰ	○	2	②					0,2	0,2		
		音楽Ⅱ		2		②				0,2	0		
		音楽Ⅲ		2				②		0,2	0		
		美術Ⅰ	○	2	②					0,2	0,2		
		美術Ⅱ		2		②				0,2	0		
		美術Ⅲ		2				②		0,2	0		
		書道Ⅰ	○	2	②					0,2	0,2		
書道Ⅱ			2		②				0,2	0			
外国語	書道Ⅲ		2				②		0,2	0			
	英語コミュニケーションⅠ	◎	3	3					3	3			
	英語コミュニケーションⅡ		4		4	3			4	3			
	英語コミュニケーションⅢ		4				5	4	5	4			
	論理・表現Ⅰ		2	2					2	2			
	論理・表現Ⅱ		2		2	2			2	2			
	論理・表現Ⅲ		2				2	2	2	2			
家庭情報	家庭基礎	◎	2	2					2	2			
	情報Ⅰ	◎	2	2					2	2			
科目単位数合計					31	31	31	31	31	93	93		
総合	探究	造計	◎	3-6	1	1	1	1	1	3	3		
					32	32	32	32	32	96	96		
					1	1	1	1	1	3	3		
特活	ホームルーム活動				1	1	1	1	1	3	3		
週当	たり総時数				33	33	33	33	33	99	99		

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
国語	論理国語	3	文・理	文3・理2

教科書	精選 論理国語（数研出版株式会社）
補助教材	頻出漢字マスター3000（尚文出版）

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的，批判的に考える力を伸ばすとともに，創造的に考える力を養い，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか），学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4 5	異文化と普遍 ピーター・バナード「超えて行く翻訳」 筆者の翻訳読書経験の具体例を通して，「翻訳」が「創作」となる可能性と妥当性について考える。	・漢字・語彙の習得。段落ごとの読解。 ・実際に英語訳された俳句をもとに，翻訳によって世界観がどのように変わるかを言語化し，意見交換する。
1	6 7	情報と知性 山田登世子「メディアのテロル」 メディアの隆盛によって我々は何を失ったのかを，情報と物語との比較によって理解し，メディアとの付き合い方を考える。	・漢字・語彙の習得。段落ごとの読解。 ・本文中の対照関係を図示しながら現代のメディアの問題点を明確にする。 ・本文を参考にしてメディアの理想的な活用法を考え発表する。
2	9 10	環境と人間 國分功一郎「意志と選択」 「意志」を概念として捉えた上で，私たちが普段行う「選択」とはどういうことか考察する。	・漢字・語彙の習得。段落ごとの読解。 ・抽象的な表現を具体的な体験に置き換えながら，哲学的な文章に馴れる。 ・その他抽象的な評論を読み解く。
2	11 12	思索の深化 小林秀雄「無常ということ」 筆者の思考過程をたどりながら「無常」「常なるもの」「歴史」について読み解き，自分とは違った視点に触れる。	・漢字・語彙の習得。段落ごとの読解。 ・筆者の独特な言い回し，時に論理を超越した自在な思考過程を味わい，発見された事柄を文章化する。 ・随想・文学的文章に触れる。
3	1 2	考えの表出 小浜逸郎「人はなぜ働かなくてはならないのか」 普遍的なテーマについて明快に論じた文章を味わいつつ，テーマを自己の問題として意識し考える。	・漢字・語彙の習得。段落ごとの読解。 ・筆者のテーマの捉え方，論述の仕方を参考に，「働く目的」について書かれた複数の文章や資料を読み比べ，自分の意見を文章にまとめる。

3. 評価方法@

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査の結果等をもとに評価する。	定期考査の結果に加えて、授業における活動の場面や、レポート・提出物の内容等で評価する。	授業における活動の様子や自己評価アンケート等をもとに評価する。

4. 補足

本文に込められた筆者の主張を主体的に読み取りましょう。そして、論理国語で学習したことを、今後の社会生活にどのように活かしていくか、意識しながら授業を受けてください。
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
国語	古典探究	3	文・理	文3・理3

教科書	高等学校 精選古典探究（第一学習社）
補助教材	学ぼぞ古文と漢文（尚文出版）・古文単語覚えるぞ（尚文出版）

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4 5	・説話（二） 「叡実、路頭の病者を憐れむ事」（発心集） 登場人物の行動と論理を読み解き、編者が語り伝えようとした価値について考察する。 ・逸話 「不若人有其宝」（新序） 子罕の逸話とそれに続く論説を読み、各人にとっての宝とは何か、人の価値観の違いを読み取る。	・古典文法・古文単語の整理と習得。 ・叡実の行動を展開に沿ってまとめ、それがどのような論理に裏付けられているか読み取る。 ・現代の価値観からみてどのように評価するか、他者と話し合った上で各自まとめる。 ・漢文句法・漢文語彙の習得。 ・子罕が玉を受け取らなかった理由と、宋国の長者がそれをどのように評価したかを読み取り、説明する。 ・自分にとっての「宝」は何か、それが自分の生き方とどう関わっているか考え文章にして発表し合う。
1	6 7	・評論（一） 「深草の里」（無名抄） 「おもて歌」を巡る和歌の評価基準を読み取り、和歌に関する多様な考え方の一端に触れる。 ・漢詩の鑑賞 「石壕吏」（杜甫） 構成に留意して作品を鑑賞し、詩に描かれた人物の思い、作者の思いを読み取る。	・古典文法・古文単語の整理と習得。 ・「夕されば」の歌の評価を通して俊恵の和歌に対する考え方を読み取る。 ・「み吉野の」の歌を、俊恵の評価基準に照らして評価する。 ・「面影に」の歌を各自評価し、他者と比べて、和歌の味わい方の多様さを知る。 ・古体詩の特徴を確認しながら、換韻をもとに詩の構成を考える。 ・詩に込められた作者の思いを文章にして述べる。

2	9 10	・物語（五） 「菅原道真の左遷」（大鏡） 歴史物語の列伝を読み解きながら、そこに描かれた歴史上の人物の細かな心情に触れる。 ・諸家の文章 「売柑者言」（劉基） みかん売りの言い分を契機にして、作者の目が何に向けられているかを読み取る。	・古典文法・古文単語の整理と習得。 ・時平と道真の人物像を、両者を対比させながら整理する。 ・和歌や漢詩に表れた道真の心情を、それらが詠まれた状況を踏まえて説明する。 ・漢文句法・漢文語彙の習得。 ・みかん売りの発言内容を整理し、作者が返事をできなかった理由を考え、作品の意図を探る。 ・比喩や寓話をういた意見文を書く。
2	11 12	・評論（二） 「行く春を」「下京や」（去来抄） 松尾芭蕉と門人たちの、句作を巡る苦心や俳諧に関する理念を読み取り、俳諧に対する理解を深める。	・古典文法・古文単語の整理と習得。 ・俳諧の知識・文学史の整理。 ・先師（芭蕉）とのやりとりを通して句の理解が深まっていくさまを体験する。 ・それぞれの句に対する評価を口語でまとめる。
3	1 2	・史記の群像 「荊軻」（史記） 荊軻をはじめとする登場人物の心情とともに、秦王暗殺事件の顛末を読み味わう。	・秦王暗殺計画の経緯をたどり、時代背景・登場人物について理解する。 ・小説や映画などになった古典作品を探し、その魅力について話し合う。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査の結果等をもとに評価する。	定期考査の結果に加えて、授業における活動の場面や、レポート・提出物の内容等で評価する。	授業における活動の様子や自己評価アンケート等をもとに評価する。

4. 補足

古典作品は我が国で長い年月をかけて受け継がれ、蓄積されてきた「価値」を有しています。語句や文法に関する基本的な知識の習得に努め、その知識を活用して、楽しみながら作品を読んでください。そして、ものの見方や人々の心のあり方に、時代によって変わるものと、時代を経ても変わらないものがあることを実感してください。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
地理歴史	地理探究	第3学年	文系 理系	4単位 3単位

教科書	新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)
補助教材	[1年次から継続使用] 新詳地理資料 COMPLETE2023(帝国書院) [3年次まで継続使用] 新地理要点ノート, 新地理の研究(啓隆社) ウィニングコンパス地理の整理と演習(とうほう)

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1 学期	4 5 6 7 月	第3章 交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信 1 世界を結ぶ交通 2 日本の交通の特徴 3 情報通信の発達 2節 観光 1 余暇の拡大と観光産業 2 日本の観光とその変化 3節 貿易と経済圏 1 世界の貿易と地域間格差 2 貿易の自由化と経済連携 3 日本の貿易 第4章 人口、村落・都市 1節 人口 1 世界の人口 2 人口の移動 2節 人口問題 1 世界の人口問題 2 日本の人口問題 3節 村落と都市 1 村落の成り立ち 2 村落の形態と機能 3 都市の成立と形態・機能 4 都市圏の拡大と都市構造 4節 都市・居住問題 1 発展途上国の都市・居住問題 2 先進国の都市・居住問題 3 日本の都市・居住問題	●ニュースで学ぶ地理 ① 日本や世界で起こる地理に関連した様々なニュースを取り上げ、現代社会の状況や変化を理解し、背景・要因や影響を考察する。 ⇒〔地理的感覚の養成〕 ② 考察の場面では、対話的活動を行い、互いの考えを理解し合う。 ⇒〔思考力・判断力の向上〕 ③ 対話的活動で考察したことを全体に向け発表する。 ⇒〔表現力の養成〕 ●教科書の読み込み【予習】 ① 単に読むではなく、何回も読み込むことで、地理的事象の要因や影響まで深く理解する。 ② 教科書の写真や地図、統計資料等の示す意味を考察する。 ③ 本文で表現の仕方を学ぶ。

2 学 期	9 10 11 12 月	第5章 生活文化，民族・宗教 1節 衣食住 1 世界の衣服と食生活 2 世界の住居と衣食住の画一化 2節 民族・宗教と民族問題 1 世界の民族・言語 2 世界の宗教 3 さまざまな民族問題 4 多文化の共生に向けた取り組み 3節 国家の領域と領土問題 1 現代世界と国家 2 領土問題と解決への取り組み 3 日本の領域と領土をめぐる問題 第2部 現代世界の地誌的考察 第2章 現代世界の諸地域 1節 中国 2節 韓国 3節 ASEAN 諸国 4節 インド 5節 西アジアと中央アジア 6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ 7節 EU諸国 8節 ロシア 9節 アメリカ合衆国 10節 ラテンアメリカ 11節 オーストラリアとニュージーランド	●『要点ノート』を中心に授業を展開 ① 重要語句を丁寧に記入する。 ② 重要事項に線を引く。 ③ 板書事項や口頭で説明したことをメモする。 ④ 作業問題を考え解答する。 ●資料集の積極的活用 ① 写真や地図を視覚的に捉える。 ② 統計資料を覚える。 ③ 近年の動向・変化を深く理解する。 ●副教材の活用（授業時＋家庭学習） ①『サクシード地理』【復習】 授業内容の要点のまとめと作業を通して基礎的知識を定着させる。 ②『新地理の研究』 記述式問題に取り組むことで授業内容の理解をより深める。 〔国公立大個別・私立大一般対応〕 ③『ウィニングコンパス』 ポイント整理で基礎知識の復習と問題演習で実践力を身に付ける。 〔共通テスト対策〕 ●タブレットの積極的活用 ① GISなどのデジタル地図や地理に関連するデジタル情報の取扱に関する技能を習得する。 ② ネットから正確な情報の収集を行い、その情報を考察しまとめ、パワーポイントを使用し表現する。
		【問題演習】総まとめ	

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査及び単元テストの結果，白地図ワークに対する取組状況をもとに評価します。	定期考査の思考・判断を必要とする問題の解答状況やレポートの評価，グループでの対話的活動，発表状況で評価します。	授業に対する取組，課題への取組，対話的活動に対する取組，タブレットの活用などを，生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

【授業において】 ① 授業の中で，まず教科書の記述内容についての十分な理解に取り組み，それぞれの分野ごとに概要を理解することが基本です。 【授業内で理解】 ② 地図帳も教科書である。地理学習の基本である地名と位置の理解を深めてほしい。授業では，必ず自分の地図帳を開いて，一度出てきた地名には必ず赤ペン等でマークすることと，必要な情報を記入すること。 ③ 地理資料は，教科書を補完する目的で授業において使用します。写真や図・統計資料(グラフ)などを見て理解を深めること。 ④ 授業プリント，考査問題をしっかりとファイリングすること。

【家庭学習】

- ① 授業があったその日のうちに、授業の内容や地理用語についての復習を行うこと。
短時間(30分程度)でよいので、日々続けることが大切です。
- ② ニュースの視聴と新聞を読む習慣をつけ、国際社会の動きに関心を持つようにする。
同時に、地理的知識や見方・考え方を身につける。(大学入試等の小論文対策にもなる)
～副教材の活用～
- ③ 『新地理の研究』は、授業の進度に合わせた問題集です。演習を行うことで、知識の定着と理解の深化を図ることができます。また定期・課題考査の範囲としても利用するので、サクシード地理とセットで学習すると更に効果が上がります。
- ⑤ 『ウィニングコンパス地理の整理と演習』は、1年次に学習した「地理総合」を含めたものです。分野ごとに「ポイントの整理」では基礎的知識の確認と習得ができます。授業で学んだ範囲の復習に使用します。「演習問題」では、センター試験や共通テストの過去の問題の中から良問が選ばれています。学習した範囲を家庭学習の中でチャレンジし、共通テストに向けて、選択式の問題に慣れておくことです。特に間違った問題の復習をしっかりとしてください。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
地理歴史	日本史探究	第3学年	文系 理系	4単位 3単位

教科書	詳説日本史探究(山川出版社)
補助教材	新日本史研究ノート応用編・重要語句チェックリスト(啓隆社) 詳説日本史図録(山川出版社)

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本史に関わる諸事象について、地理的条件や東アジアをはじめとする世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸史料から日本史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身に付けている。	日本史に関わる事象の意味や意義、自然と人間との関わり、我が国で熟成された文化の成り立ち、アジア及び世界との関係、近代文明の発展について多面的・多角的に考察し、表現している。また、それらを効果的に説明したり、議論したりしている。	日本史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。また、見通しをもって学習に取り組み、課題を克服しようとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1学期	4 5 6 7月	III部 近世 第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化 第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 IV部 近代・現代 第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足 第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立 第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第1次世界大戦と日本 3 ワシントン体制	- 幕藩体制下の支配体制、封建的身分秩序の形成、経済的基盤などを踏まえて考察する。文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治を取り上げ、幕政の安定過程を考察する。 - 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について考察できたか。 - 列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や寛政の改革・文化・文政時代・天保の改革にける失政を踏まえて、幕府衰退の理由を考察する。 - 開港による経済・社会の情勢変化に着目して、政局への影響について考察する。 - 近代化政策や欧米文化の導入について、その受容のあり方について理解する。 - 国会開設要求の運動などにみられる国民政治的関心の高揚と挫折の過程について考察する。 - 日露戦争が軍事力・経済力・工業力など国家の総力を結集して戦われたことを理解する。

2 学 期	9 10 11 12 月	第 14 章 近代産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化 第 15 章 恐慌と第 2 次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦 第 16 章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 第 17 章 高度経済成長の時代 1 55 年体制 2 経済復興から高度経済成長へ 第 18 章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の変容	・産業基盤の整備と、産業革命以降の重化学工業の発展の関連性を理解する。 ・欧米文化の浸透度、社会風潮との関連づけに着目して、この時代の全体像を考察する。 ・戦後恐慌・金融恐慌・昭和恐慌について、関東大震災・金解禁と世界恐慌と関連づけて考察する。 ・日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など様々な角度から考察する。 ・占領政策、および主権回復後の日本の歩みについて、東西冷戦との関連において考察する。 ・高度経済成長時代を現出した日本内外の諸要因について考察する。 ・高度経済成長時代が終わった後の、貿易摩擦・円高などの諸課題への対応について考察する。
		3 学 期 1 2 3 月	総復習 大学入学共通テストまでは前月の続き。その後は国公立大学個別試験および私立大学入試に向けての総復習と問題演習を行う。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査及び単元テストの結果等をもとに評価します。	定期考査の思考・判断を必要とする問題の解答状況やレポートの評価、グループでの対話的活動、発表状況で評価します。	授業に対する取組、課題への取組、対話的活動に対する取組、授業中の発言、生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

【授業において】 ① 授業の中で、まず教科書の記述内容についての十分な理解に取り組む、それぞれの分野ごとに概要を理解することが基本です。 ② 歴史は、なぜ、どこで、いつ、何が（誰が）、どうした、ということを常に理解していく必要があります。適当に覚えているようではいつまでも身につかないので、日頃から自分だけの年表を作ったり、単語帳を作ったりして、理解できるようにしましょう。 ③ 歴史問題では過去の史料や写真、統計資料などが必ず出てきます。特に古代資料は漢文や古文で書いてあるので、国語の授業内容もしっかりおさえておきましょう。 ④ 授業プリント、考査問題をしっかりとファイリングし、いつでも復習できるように。 ① 授業があったその日のうちに、授業の内容や歴史的用語についての復習を行いましょ う。短時間(30分程度)でもよいので、日々続けることが大切です。 ② 日本史だけではなく、海外の歴史にも興味を持ちましょう。特に日本と東アジア諸国とのつながりは、いつの時代でも必ず出てきます。どのような関係だったのかを知ることで、今日の日本と世界各国のつながりが理解できることもあると思います。
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
地理歴史	世界史探究	第3学年	文系 理系	4単位 3単位

教科書	「世界史探究」(東京書籍)
補助教材	「アカデミア世界史」(浜島書店) 「要点マスター 世界史探究整理と要点」(東京書籍)

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界史上重要な出来事については、その概要と意義、および「いつ、どこで」起こったことなのかを明確に理解し、記憶している。そして、それらの情報を必要に応じて速やかに取り出し、活用することができる。	史料やデータを正確に読み取り、歴史上の様々な事象について、その実態や意義について考えることができる。また、異なる国や地域で起こった事象について、互いの関係性を地域横断的に捉えて考察し、世界全体の構造として認識、理解することが出来る。その上で、これらの知見について適切に記述、あるいは口頭で説明できる。	世界史上の諸問題について、その性格や意義について積極的に考えようという意識を持つ。また、学習したことをきちんと記録して、こまめに復習すると共に、より発展的な考察を行うために積極的に活用する。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	第14章 国民国家と近代社会の形成 1. 産業革命と工業化 2. アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国の独立 3. フランス革命とウィーン体制 4. 自由主義の台頭と新しい革命の波 5. 19世紀後半のヨーロッパ諸国 6. 南北アメリカの発展	近代の幕開けを告げる重要な出来事である産業革命と市民革命について、その経過を詳しく学びます。また、フランス革命をその後のナポレオンの時代を通じて形成されたナショナリズムがどのように解釈され、どのように世界を動かしたのか、史料を援用しつつ丁寧に読み解きます。
1	5	第15章 世界市場の形成とアジア諸国の変容 1. 産業資本主義の世界への波及と欧米社会 2. 西アジアの危機と改革の始まり 3. 南アジア・東南諸国の植民地化 4. 清における開発の限界と二つのアヘン戦争	ヨーロッパ列強がなぜアジアに介入してきたのか、それがアジア諸国にどのような影響をもたらしたのかを資料や地図を用いて、考察します。また、アヘン戦争における新たな世界市場の形成とその変容について教科書を丁寧に読み解き学習します。
1	6	第16章 アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行 1. 列強の覇権争い 2. 西アジア・中央アジアの変革 3. 南アジア・東南アジアの民族運動	帝国主義の構造と、その展開について、教科書と資料集を用いて考察します。帝国主義は、世界各地の植民地化の歴史を、教科書で史実を丁寧に押さえつつたどりまします。その上で、当時の史料も利用して、

		4 清の体制転換と近代国家建設の模索	帝国主義時代の世界の構造について、一 体的な見取り図を作成します。
2	7 8	第 17 章 第一次世界対戦の展開と諸地域の変容 1. 第一次世界大戦 2. ヴェルサイユ体制と国際秩序の変 容 3. 大戦後のアメリカ合衆国とヨーロ ッパ 4. アジア・アフリカでの国家形成の 動き 第 18 章 国際協調体制の動揺と第二次世界大戦 1. 世界恐慌と政治・経済の変容 2. 国際協調体制の動揺 3. 第二次世界大戦の開戦と展開 4. 戦後秩序構想と冷戦の形成	第一次世界大戦は、未曾有の性格の戦 争でした。この戦争の特質と、それが戦 後の世界にもたらした変化について、写 真や映像を用いながら考察します。 また、世界恐慌という未曾有の経済危 機について、その原因と実態を明らかに し、それがどのようにしてファシズムの 台頭や第二次世界大戦に繋がったのか を、教科書の記述を丁寧に押さえながら 学習します。
2	9	第 19 章 第二次世界対戦と戦後の東アジア 1. アジア・太平洋戦争と日本の敗戦 2. 帝国の解体と分断国家の形成 3. アジア諸国の独立と脱植民地化 4. 朝鮮戦争と東アジアの「冷戦」	第二次世界大戦が終結した後も東アジ アに平和は到来せず、国共内戦、朝鮮戦 争、インドシナ戦争などが継続すること になりました。東アジアがどのように冷 戦に組み込まれ、脱植民地化を果たした のかを写真や地図を用いて考察します。
2	10	第 20 章 冷戦の世界化と国際制度 1. 冷戦と政治・経済秩序 2. アジア・アフリカ諸国の独立と第 三勢力 3. 平和共存と社会主義圏の多極化 第 21 章 冷戦の変容・終結と経済のグローバル化 1. アメリカ合衆国の覇権の動揺と冷 戦の変容 2. 冷戦の変容と世界の諸地域 3. 冷戦の終結とその後の世界 4. アメリカ合衆国の復調とグローバ ル化	40 年以上にわたって世界を脅かした 東西冷戦のメカニズムについて、資料を 用いて考察します。また、東西冷戦後の 複雑な国際情勢について、教科書で史実 を追いながら、その現状と将来の展望を 明らかにします
2	11	第 22 章 21 世紀の地域的課題と人類社会 1. グローバル化に伴う世界の変容 2. 地域的諸課題 3. 新たな秩序変容	人類社会がどのような課題に直面して いるのか、その課題がどのようにして形 成されてきたのか、資料集や教科書を丁 寧に押さえながら学習します。
2	12	総復習・問題演習	大学入学共通テスト、国公立大学、私立 大学入試に向けての総復習と演習を行 います。プリント使用。
3	1 2		

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，実力考査の結果 により評価する。	定期考査，実力考査の結果 に加えて，授業中の発表や演	授業ノート，および復習ノ ートの内容，授業中の発表や

	習の内容により評価する。	活動状況により評価する。
--	--------------	--------------

4. 補足

授業のルールとして、以下のことを厳守してください。 ①教材を忘れないこと。もしも忘れた場合は、授業の前に教科担当者にその旨伝えて、授業に支障のないよう、必要な措置を講じること、 ②授業は始業のチャイムと同時に始めます。始業時間までに教材を準備して、着席しておくこと。
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
公 民	政治・経済	第3学年	文 系	2 単位

教科書	改訂版 政治・経済（第一学習社）
補助教材	最新政治・経済資料集（第一学習社） ウィニングコンパス公共・政経の整理と演習 2025（とうほう）

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
一学期	4 ～ 7	(1) 現代日本の政治 ① 政治と法の意義と機能 ② 基本的人権の保障と法の支配 ③ 権利と義務との関係 ④ 議会制民主主義 ⑤ 地方自治	現代日本の政治に関わる①～⑤の事項について、資料をもとに学習し、諸課題について多面的・多角的に考察し、論拠を持って発表したりする学習活動を行います。
二学期	8 ～ 12	(2) 現代日本の経済 ⑥ 経済活動と市場 ⑦ 経済主体と経済循環 ⑧ 国民経済の大きさと経済成長 ⑨ 物価と景気変動 ⑩ 財政の働きと仕組み及び租税などの意義 ⑪ 金融の働きと仕組み (3) グローバル化する国際社会の諸課題 ⑫ 国際社会の変遷 ⑬ 人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義 ⑭ 国際連合をはじめとする国際機構の役割	現代日本の経済、グローバル化する国際社会の課題に関わる⑥～⑭の事項について資料をもとに学習し、諸課題について多面的・多角的に考察し、論拠を持って発表したりする学習活動を行います。

二 学 期	8 ↓ 1 2	⑮我が国の安全保障と防衛，国際貢献 ⑯貿易の現状と意義 ⑰為替相場の変動 ⑱国民経済と国際収支 ㉑国際協調の必要性や国際経済機関の役割	
三 学 期	1	(4)現代日本における政治・経済の諸課題の探究	「政治・経済」のまとめとして， よりよい社会の形成という観点から， 現代社会の諸課題について，自ら 課題を見いだし，その解決に向けて 考察し，自分の考えを説明，論述 する探究学習を行います。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，及び単元ごとに実施する単元テストの結果等をもとに評価します。	定期考査や単元テストのみならず，論述やレポートを課して評価したり，グループでの話合いや発表の場面で評価したりします。	レポートやリフレクションシート等における記述，授業中の発言，生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

たくさんのニュースを目にする中で，現代社会が大きな転換点にたっていることを感じている人も多いと思います。現実の政治や経済を支える仕組みやその課題について様々な資料を通して読み解きます。授業はペアワークを中心に行い，発問を通して思考・判断や対話・表現活動を行う学習内容となっています。

政治・経済の諸課題について学び，「なぜ」「どうして」という素朴な疑問を大切にしながら，自由に意見を出し合い，様々な角度から「よりよい社会とは何か」を考えていきましょう。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
数学	数学Ⅱ	3	文系	2

教科書	新編 数学Ⅱ（数研出版）
補助教材	スタディサプリ大学受験・高校講座

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習内容（何を学ぶか），学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4 ～ 5	1章 方程式・式と証明 1節 式と計算 2節 複素数と方程式 3節 式と証明 2章 図形と方程式 1節 点と直線 2節 円 3節 軌跡と領域	直線や円の方程式や軌跡・領域について学び，それらを用いて性質や位置関係について考察し学習する。
	6 ～ 7	3章 三角関数 1節 三角関数 2節 加法定理 4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 2節 対数関数 5章 微分法と積分法 1節 微分係数と導関数 2節 微分法の応用 3節 積分法	三角関数の値の変化やグラフの特徴，基本的な性質，加法定理・2倍角の公式・三角関数の合成について学び，式とグラフの関係について多面的に考察し学習する。 指数法則や指数関数・対数関数について学び，相互に関連付けて多面的に考察し学習する。 導関数，極大・極小，不定積分及び定積分について学び，関数の局所的な変化に

			着目し，様々な事象を数学的に捉え考察し学習する。
2	9 ～ 12	個別試験および 共通テスト対策問題演習	入試問題を利用した演習を行う。入試に必要な思考力や判断力を身につけることを目標とする。大学入学共通テストへ向けての問題演習も行う。
3	1	個別試験および 共通テスト対策問題演習	
	2	個別試験対策問題演習	入試問題を利用した演習を行う。入試に必要な思考力や判断力を身につけることを目標とする。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，及び実力考査等の結果をもとに評価する。	定期考査や実力考査のみならず，グループで話し合いや発表の場面で評価する。	授業中の発言，生徒による自己評価等をもとに評価する。

4. 補足

復習については苦手な分野を把握し，公式・定理・解法を理解していくことが大切です。丸暗記するのではなく，ときには時間をかけて計算過程を吟味し，グラフや図を描くなどしてイメージを創りながらじっくり考え，粘り強い態度をもって学習に取り組んでください。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
数学	数学Ⅲ	3	理系	5

教科書	新編 数学Ⅲ（数研出版）
補助教材	スタディサプリ大学受験・高校講座

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・学習するそれぞれの内容についての概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりするための技能を身に付けている。	・式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして，極限を求める方法を考察することができる。 ・関数の連続性と微分可能性，関数のグラフの形状とその導関数や第二次導関数の関係について考察することができる。 ・微分法と積分法の関係に基づき立体の体積や曲線の長さを求める方法を考察できる。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養おうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか），学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4～5	1章 関数と極限 1節 関数 2節 数列の極限 3節 関数の極限 2章 微分法 1節 微分法 2節 いろいろな関数の導関数	・合成関数や逆関数を求め方を学び，いろいろな関数の極限を調べることができるように学習する。また，関数の極限の性質や連続性の概念を学習する。 微分法の概念を学び，合成関数や逆関数の微分法を用いて，いろいろな関数を微分することを学ぶ。
	6～7	3章 微分法の応用 1節 接線，関数の増減 2節 いろいろな微分法の応用	微分法を利用して，曲線の接線や法線の方程式を求め，関数のグラフをかくことを学ぶ。
2	9	4章 積分法 1節 不定積分法 2節 定積分 3節 積分法の応用	不定積分と定積分の性質を理解し，微分との関係についての考え方や概念を学習し，置換積分法，部分積分法を用いていろいろな関数の積分を学習する。
	10～12	個別試験および共通テスト対策問題演習	入試問題を利用した演習を行う。入試に必要な思考力や判断力を身につけることを目標とする。大学入学共通テストへ向けての問題演習も行う。
3	1	個別試験および共通テスト対策問題演習	
	2	個別試験対策問題演習	入試問題を利用した演習を行う。入試に必要な思考力や判断力を身につけることを目標とする。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，及び単元ごとに実施する単元テスト等の結果をもとに評価する。	定期考査や単元テストのみならず，グループで話し合いや発表の場面で評価する。	授業中の発言，生徒による自己評価等をもとに評価する。

4. 補足

復習については苦手な分野を把握し，公式・定理・解法を理解していくことが大切です。丸暗記するのではなく，ときには時間をかけて計算過程を吟味し，グラフや図を描くなどしてイメージを創りながらじっくり考え，粘り強い態度をもって学習に取り組んでください。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
数学	数学 A	3	文理共通	1

教科書	新編 数学 A (数研出版)
補助教材	スタディサプリ大学受験・高校講座

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見だし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見だし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習内容（何を学ぶか），学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4 ～ 5	1 章 場合の数と確率 1 節 場合の数 2 節 確率	数学 A の内容をさらに発展的に学習する。
	6 ～ 7	2 章 図形の性質 1 節 三角形の性質 2 節 円の性質 3 節 作図 4 節 空間図形	数学 A の内容をさらに発展的に学習する。
2	9 10 ～ 12	個別試験および 共通テスト対策問題演習	入試問題を利用した演習を行う。入試に必要な思考力や判断力を身につけることを目標とする。大学入学共通テストへ向けての問題演習も行う。
3	1	個別試験および 共通テスト対策問題演習	
	2	個別試験対策問題演習	入試問題を利用した演習を行う。入試に必要な思考力や判断力を身につけることを目標とする。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，及び単元ごとに	定期考査や単元テストのみ	授業中の発言，生徒による

実施する単元テスト等の結果をもとに評価する。	ならず，グループで話合いや発表の場面で評価する。	自己評価等をもとに評価する。
------------------------	--------------------------	----------------

4. 補足

復習については苦手な分野を把握し，公式・定理・解法を理解していくことが大切です。丸暗記するのではなく，ときには時間をかけて計算過程を吟味し，グラフや図を描くなどしてイメージを創りながらじっくり考え，粘り強い態度をもって学習に取り組んでください。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
数学	数学 B	3	文系	1

教科書	新編 数学 B (実教出版)
補助教材	スタディサプリ大学受験・高校講座

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「数列」の学習では、漸化式や記号 Σ を適切に取り扱い、身近な問題を解決したり、数学的帰納法を用いて、自然数を用いた命題を証明できたりする技能を身に付けている。 ・「確率分布と統計的な推測」の学習では、不確定な事象を確率分布を活用して考察したり、連続的な確率変数と確率密度関数の意味を考察し、正規分布を具体的な事象に活用できたり、確率の理論を統計に応用し、標本平均から母平均などを推定できたりする技能を身に付けている。 ・「数学と社会生活」の学習では、問題解決の手順や移動平均について理解し、社会における問題を解決する方法を考察できたり、単利法や複利法、積立預金について理解し、経済の事象を考察できたりする技能を身に付けている。	・「数列」の学習では、離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察できる。 ・「確率分布と統計的な推測」の学習では、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりできる。 ・「数学と社会生活」の学習では、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりできる。	・数列の一般項や和の記号 Σ，漸化式，数学的帰納法について関心をもち、数列を身近な問題の解決に活用しようとする。 ・統計的な推測について関心をもち、統計的な見方や考え方を活用して日常生活の疑問を解決しようしたり、問題に取り組もうとしたりする。 ・粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4 ～ 5	1 章 数列 1 節 数列とその和 2 節 いろいろな数列 3 節 漸化式と数学的帰納法	数学的活動を通して、有用性を認識し一般項や和を求める方法や、漸化式や数学的帰納法を学び、そこから規則性を表現・考察し日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考え方を問題解決に活用するなど多面的に考察する。
	6 ～ 7	2 章 確率分布と統計的な推測 1 節 確率分布 2 節 二項分布と正規分布 3 節 統計的な推測	数学的活動を通して、標本調査の考え方や確率変数・確率分布、二項分布・正規分布、区間推定・仮説検定について学び、各特徴をデータを用いて考察する。

2	9 ～ 12	個別試験および 共通テスト対策問題演習	入試問題を利用した演習を行う。入試に必要な思考力や判断力を身につけることを目標とする。大学入学共通テストへ向けての問題演習も行う。
3	1	個別試験および 共通テスト対策問題演習	
	2	個別試験対策問題演習	入試問題を利用した演習を行う。入試に必要な思考力や判断力を身につけることを目標とする。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，及び実力考査等の結果をもとに評価する。	定期考査や実力考査のみならず，グループで話し合いや発表の場面で評価する。	授業中の発言，生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

復習については苦手な分野を把握し，公式・定理・解法を理解していくことが大切です。丸暗記するのではなく，ときには時間をかけて計算過程を吟味し，グラフや図を描くなどしてイメージを創りながらじっくり考え，粘り強い態度をもって学習に取り組んでください。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
数学	数学 C	3	文理共通	1

教科書	新編 数学 C (数研出版)
補助教材	スタディサプリ大学受験・高校講座

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・平面図形や空間図形の性質などをベクトルを用いて表したり、ベクトルで表された方程式の意味を図形に即して読み取ったりする技能を身に付けている。 ・媒介変数を用いた式で表したり、直交座標を極座標で表したりする技能を身に付けている。 ・日常の事象や社会の事象などを、図、表、統計グラフや離散グラフ、行列などを用いて工夫して表現する技能を身に付けている。	・大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察できる。 ・図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察できる。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現できる。	・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用しようとする。媒介変数や極座標及び複素数平面の考えを問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりする。図、表、統計グラフ、離散グラフ及び行列などを用いて、数学的に表現し、考察しようとする。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4 ～ 5	1章 ベクトル 1節 平面上のベクトル 2節 ベクトルの応用 3節 空間のベクトル	数学 I の内容を基礎とし、大きさと向きをもった量の図形的な意味や構造の基本原則・法則を学び、それらの性質を発展的に学習する。
	6 ～ 7	2章 複素数平面 1節 複素数平面 3章 平面上の曲線 1節 2次曲線 2節 媒介変数表示と極座標	放物線、楕円、双曲線などの2次曲線の基本的な性質について学び、曲線の媒介変数表示や極座標、極方程式、ド・モアブルの定理など相互に関連付けて捉え考察し学習する。
2	9 ～ 12	個別試験および 共通テスト対策問題演習	入試問題を利用した演習を行う。入試に必要な思考力や判断力を身につけることを目標とする。大学入学共通テストへ向けての問題演習も行う。
3	1	個別試験および 共通テスト対策問題演習	
	2	個別試験対策問題演習	入試問題を利用した演習を行う。入試に必要な思考力や判断力を身につけることを目標とする。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，及び単元ごとに実施する単元テスト等の結果をもとに評価する。	定期考査や単元テストのみならず，グループで話し合いや発表の場面で評価する。	授業中の発言，生徒による自己評価等をもとに評価する。

4. 補足

復習については苦手な分野を把握し，公式・定理・解法を理解していくことが大切です。丸暗記するのではなく，ときには時間をかけて計算過程を吟味し，グラフや図を描くなどしてイメージを創りながらじっくり考え，粘り強い態度をもって学習に取り組んでください。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
理科	物理	3 学年	理系選択	4

教科書	高等学校 物理（第一学習社）
補助教材	セミナー物理（第一学習社）

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	第Ⅱ章 波動 第1節 波の性質 ①正弦波 ②波の伝わり方 探究5 水面波の干渉	・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、正弦波の式、位相について理解する。 ・ $y-x$ グラフ、 $y-t$ グラフのそれぞれの特徴について理解する。 ・水面波の干渉を学習し、ホイヘンスの原理、平面波の反射・屈折、波の回折など、波の伝わり方について理解する。
	5	第2節 音波 ①音の伝わり方 探究6 クイーンケ管による音速の測定 ②ドップラー効果	・「物理基礎」で学習した音の速さを復習し、反射・屈折・回折・干渉など、音波の性質や伝わり方について理解する。 ・波源の移動と波長の変化を学習し、音源や観測者が動くさまざまな場合のドップラー効果について、式を用いて理解する。
	6	第3節 光波 ①光の性質 ②レンズと鏡 ③光の回折と干渉 探究7 ヤングの実験	・光が波の一種であることを学習し、その種類を理解する。 ・光の速さを学習し、反射、屈折、全反射などの光の進み方について理解する。 ・光の分散、散乱、偏光など、光の性質について理解する。 ・レンズや鏡の基本的な性質を学習し、実像、虚像

学期	月	学習内容	学習方法
			のでき方のしくみについて、式を用いて理解する。 ・ヤングの実験や回折格子による光の干渉を学習し、薄膜による干渉、くさび形空気層による干渉など、さまざまな場合における光の干渉条件を理解する。
	7	第Ⅲ章 電気と磁気	
		第1節 電場と電位 ①静電気力 ②電場 ③電位 探究8 等電位線と電気力線 ④コンデンサー	・電荷や帯電、電気量保存の法則などを学習し、静電気力について定量的に理解する。 ・導体、不導体、半導体を区別し、静電誘導、誘電分極のしくみを理解する。 ・電場の基本的な性質を学習し、電場と電気力線の関係、一様な電場について理解する。 ・電位の基本的な性質を学習し、等電位面と電気力線の関係について理解する。 ・コンデンサーの原理を学習し、平行板コンデンサーの電気容量、誘電体、誘電率について理解する。 ・コンデンサーを接続したときの合成容量、静電エネルギーについて理解する。 ・事と静電エネルギーの関係について、意欲的に考える。
2	9	第2節 電流 ①電流と抵抗 ②直流回路 探究9 電池の起電力と内部抵抗 ③半導体	・電子の運動をもとにした、オームの法則の導出過程を理解する。 ・電流計、電圧計、電池の内部抵抗について理解し、さまざまな回路において、キルヒホッフの第1, 2法則を適用する。 ・ホイートストンブリッジや電位差計のしくみを学習し、非直線抵抗やコンデンサーを含む回路について理解する。 ・半導体の性質を学習し、ダイオードや太陽電池のしくみについて理解する。
	10	第3節 電流と磁場 ①磁場 ②電流がつくる磁場 ③電流が磁場から受ける力 ④ローレンツ力	・磁気力に関するクーロンの法則を学習し、電流がつくる磁場の強さと磁力線の概形について理解する。 ・磁場中で電流が受ける力について、フレミングの左手の法則や右ねじの関係をjを用いて定量的に理解

学期	月	学習内容	学習方法
			する。 ・磁束密度と磁場との関係，磁化の性質を理解し，平行電流間にはたらく力を定量的に理解する。 ・ローレンツ力について学習し，磁場中に入射した粒子の運動を理解する。 ・ローレンツ力を踏まえて，電子の運動に着目し，ホール効果のしくみを理解する。
	11	第4節 電磁誘導と交流 ①電磁誘導 ②自己誘導と相互誘導 ③交流 ④電磁波 探究 10 ゲルマニウムラジオの製作	・ファラデーの電磁誘導の法則を学習し，磁場中を動く導体に生じる起電力や，導体を動かすのに要する力や仕事の関係を理解する。 ・磁場中を動く導体に生じる起電力や，導体を動かすのに要する力，仕事の関係を理解する。 ・自己誘導，相互誘導の現象を理解し，生じる起電力を計算する。 ・交流の発生 of のしくみを理解し，交流回路における抵抗，コイル，コンデンサーの特性を理解する。 ・電気振動の現象をエネルギーの観点から把握し，固有振動数の式を理解する。 ・変圧器のしくみを理解する。 ・磁場と電場の関係，電磁波の性質や種類を学習し，電磁波がその波長に応じてさまざまなものに利用されていることを理解する。
	12	第IV章 原子	
		第1節 電子と光 ①電子 ②光の粒子性 探究 11 プランク定数の測定 ③X線 ④粒子の波動性	・電子の発見からその性質が解明されるまでの歴史的な背景において，トムソンやミリカンの実験について理解する。 ・光電効果とその特徴を学習し，光電子の運動エネルギーと仕事関数との関係を定量的に理解する。 ・光子を用いたアインシュタインの考えによって，光電効果が説明できることを理解する。 ・X線の発生とその原理を学習し，特性X線や連続X線，最短波長などについて理解する。 ・ラウエやブラッグの実験を学習し，エネルギー保存の法則や，運動量保存の法則を用いて，コンプトン効果を定量的に理解する。

学期	月	学習内容	学習方法
			・物質波について学習し，弱い光源によるヤングの実験をもとに，粒子と波動の二重性を理解する。
3	1	第2節 原子と原子核 ①原子の構造 ②原子核と放射線 探究 12 放射性物質とその半減期 ③核反応とエネルギー ④素粒子と宇宙	・これまでに提唱された原子模型と，各模型の特徴を理解する。 ・ラザフォードの原子模型の難点を把握し，ボーアの水素原子模型の特徴を理解する。 ・水素原子における電子の軌道半径やエネルギー準位について，式を用いて理解する。 ・放射性崩壊における特徴と原子核の安定性について理解する。 ・核反応について学習し，反応の際に放出，吸収されるエネルギーを理解する。 ・素粒子に関する研究の歴史を踏まえ，クォークとレプトン，自然界の基本的な力を学習して，素粒子の研究と宇宙の進化の解明を結びつけて理解する。
	2	終章 物理学が築く未来	
			・物理学が，さまざまな分野で利用され，新しい科学技術の基盤となっていることを理解する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，及び単元ごとに実施する単元テストの結果等をもとに評価します。	課題研究や実験レポートを課して評価したり，グループでの話し合いや発表の場面で評価したりします。	実験レポートやリフレクションシート等における記述，授業中の発言，生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

1日1～2問（時間30分程度）の課題を出します。習慣化できるようにしましょう。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
理科	化学基礎	3 学年	文系選択	2

教科書	「化学基礎」(東京書籍)
補助教材	セミナー化学基礎 (第一学習社)

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるとともに、課題に対して自ら取り組むことができる。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身につけている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。また、自ら課題を見つけて既習事項の復習や演習を行うことができる。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か 2 章 物質の成分と構成元素	既習事項の復習と確認
	5	2 編 物質の構成 1 章 原子の構成と元素の周期表 2 章 化学結合	既習事項の復習と確認
	6	3 編 物質の変化 1 章 物質と化学反応式 2 章 酸と塩基	既習事項の復習と確認
	7	3 章 酸化還元反応	既習事項の復習と確認
	9 ～ 12	入試問題を用いた共通テスト演習	問題集を用いた演習を行う。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査、及び単元ごとに実施する単元テストの結果等をもとに評価します。	課題研究や実験レポートを課して評価したり、グループでの話し合いや発表の場面で評価したりします。	実験レポートや課題の提出状況、生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

週 2 時間の授業で進みます。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
理科	化学	3 学年	理系選択	4

教科書	「化学」(東京書籍)
補助教材	サイエンスビュー新化学資料(実教出版) セミナー化学基礎+化学(第一学習社)

1. 評価規準(何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習内容(何を学ぶか)、学習方法(どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	4 編 無機物質 1 章 周期表と元素 1 節 周期表と元素 2 章 非金属元素の単体と化合物 1 節 水素とその化合物 2 節 希ガス 3 節 酸素とその化合物 4 節 ハロゲンとその化合物 5 節 硫黄とその化合物 6 節 窒素・リンとその化合物 7 節 炭素・ケイ素とその化合物	・化学基礎での学習を元に、周期表の分類について理解する ・水素がほかの元素と水素化合物を作ることを理解する。 ・貴ガスの性質や主な用途について知る。 ・酸性酸化物、塩基性酸化物、両性酸化物の特徴を理解する。 ・身近にあるハロゲンの利用方法をハロゲンの反応性と関連付けて意見交換をする。 ・硫黄の単体を同素体を元に確認する。 ・アンモニアの製法について、弱塩基の遊離を使って説明し、その性質について理解する。 ・炭素の単体について、同素体を確認し、それぞれの構造や性質などを理解する。
	5	3 章 典型金属元素の単体と化合物 1 節 アルカリ金属とその化合物 2 節 アルカリ土類金属とその化合物 3 節 1, 2 族以外の典型金属元素とその化合物	・アルカリ金属の単体について、その製法を電気分解の特徴から理解する。 ・アルカリ土類金属の単体の性質について、周期表を元に整理して理解する。 ・アルミニウムの単体の製法・性質・用途について確認する。 ・スズ・鉛の単体と化合物について、それぞれの性質や用途を確認する。

学期	月	学習内容	学習方法
	5	4章 遷移元素の単体と化合物 1節 遷移元素の特徴 2節 遷移元素とその化合物 5章 金属イオンの分離と確認 1節 金属イオンが検出できる反応 2節 金属イオンの系統分類と確認	・遷移元素の特徴を典型元素と比較しながら理解する。 ・亜鉛，鉄，銅，銀等の単体や化合物について，その製法と性質，用途を理解する。 ・複数の金属イオンの混合溶液から各金属イオンを分離し，その種類を確認することを系統立てて行う方法について理解する。
	6	5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 1節 有機化合物の特徴 2節 有機化合物の構造式の決定 2章 炭化水素 1節 飽和炭化水素 2節 不飽和炭化水素 3章 アルコールと関連化合物 1節 アルコールとエーテル 2節 アルデヒドとケトン 3節 カルボン酸 4節 エステル・油脂・セッケン	・有機化合物の構成元素の種類が少ないにもかかわらず，化合物の種類が極めて多いことを理解する。 ・構造式決定の手順を理解し，物質の分離精製，成分元素の確認について理解する。 ・直鎖状アルカンの名称と性質を理解し，代表的なアルキル基の名称についても確認する。 ・アルケンの一般式 C_nH_{2n} やアルキンの一般式 C_nH_{2n-2} を確認し，それらの名称と構造について理解する。 ・アルコールの構造とさまざまな分類方法について理解する。 ・カルボニル化合物について知り，アルデヒドとケトンの分類法について理解する。 ・カルボン酸の表記について確認し，第一級アルコールやアルデヒドの酸化でできることを確認する。 ・エステルの加水分解について理解し，塩基による加水分解（けん化）を確認する。
	7	4章 芳香族化合物 1節 芳香族炭化水素 2節 フェノール類と芳香族カルボン酸 3節 芳香族アミンとアゾ化合物 4節 芳香族化合物の分離	・ベンゼンの構造について，アルカンやアルケンの炭素間結合と比較して理解する。 ・主なフェノール類や芳香族カルボン酸の構造と特徴を理解する。 ・アニリンの合成方法を確認し，その性質を理解する。 ・ジアゾカップリングについて確認し，その構造を理解する。 ・芳香族化合物の特徴を理解し，中和，酸の強弱，弱酸・弱塩基の遊離について確認する。

学期	月	学習内容	学習方法
2	9	6 編 高分子化合物 1 章 高分子化合物とは何か 1 節 高分子化合物の分類と特徴 2 章 天然高分子化合物 1 節 単糖類と二糖類 2 節 多糖類 3 節 アミノ酸 4 節 タンパク質 3 章 合成高分子化合物 1 節 合成繊維 2 節 合成樹脂 3 節 ゴム	・高分子化合物の構成単位となる分子を単量体といい、重合によって重合体ができることを理解する。 ・グルコースの構造について、水溶液中で平衡状態について理解する。 ・アミロースとアミロペクチンの構造について確認する。 ・ α -アミノ酸の一般的な構造式を確認し、グリシン、アラニン、グルタミン酸の構造について確認する。 ・タンパク質の一次構造、二次構造、三次構造、四次構造について基本的な要素を理解する。 ・合成繊維とは何か理解する。 ・合成樹脂（プラスチック）とは何か確認する。 ・ゴムの劣化と加硫について確認する。
	10	7 編 化学が果たす役割 1 章 化学的性質の利用と工業的製法 1 節 ハロゲンの性質と酸化還元反応の応用 2 節 物質の工業的製法 2 章 未来を創る化学 1 節 物質を通して未来を創る 2 節 物質を通して未来を考える	・ビタミン C の濃度に関する実験を行い、清涼飲料水中に含まれるビタミン C を計算する。 ・化学反応による工業的製法について理解する。 ・ハーバー・ボッシュ法の歴史を元に、化学が果たす役割を考える。
	11 12	入試対策問題演習	・問題集を用いて演習を行い、考える力を身につける。
	1 ～ 3	入試対策問題演習	・進路目標に応じた問題演習を行う。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，及び単元ごとに実施する単元テストの結果等をもとに評価します。	課題研究や実験レポートを課して評価したり，グループでの話合いや発表の場面で評価したりします。	実験レポートや課題の提出状況，授業中の発言，生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

週 4 時間の授業で進みます。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
理科	生物基礎	3	文系	2

教科書	生物基礎（東京書籍）
補助教材	セミナー生物基礎（第一学習社）

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物と生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や観察・実験に関する技能を身に付けようとしている。	生物と生物現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けようとしている。	生物と生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けようとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移	1 以下の①～③のサイクルを継続する。 ① 予習（10～15分） 教科書を、図表や写真等と照らし合わせながら読む。理解できない箇所にペン等で印をつけ、授業時に解決できるように準備する。 ② 授業（50分） 五感を研ぎ澄ませて取り組み、疑問点の解決に努める。板書事項以外でも重要な点はメモする。 ③ 復習（授業日＋週末） 問題集の問題を解き、理解度を確認する。不十分な点は、教科書や図録で再確認し、要点をまとめておく。
	5	2節 気候とバイオーム	
	6	3節 生態系と物質循環 4節 生態系のバランスと保全	
	7	単元ごとに再履修する。 実験 顕微鏡の操作 実験 ミクロメーターの使用方法 1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 実験：カタラーゼのはたらき	
2	9	2章 遺伝子とそのはたらき 1節 遺伝情報とDNA 2節 遺伝情報の分配 3節 遺伝情報とタンパク質の合成 実験：DNAの抽出 実験：体細胞分裂の観察	2 観察・実験 ※安全面に留意して取り組む。 (1) 実施前に目的を理解しておく。 (2) 予想や仮説を立てて臨む。 (3) 正確な操作を心がける。 (4) 実験データなどの事実を正確に記録し、表や図、文章に変換する。結果をもとに考察する。 (5) 「なぜそのような操作をするのか?」、「なぜそのような結果になるのか?」常に問いかけながら取り組む。 3 自主的に調べる 疑問点は、自主的に調べて解決に努める。 以下、同様に学習を進める。
	10	3章 生物の体内環境とその維持 1節 体内環境 2節 生物の維持のしくみ 3節 免疫	
	11	総合問題演習と復習	

	12		復習する。
3	1	総合問題演習と復習	

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，単元テストの結果，観察・実験の技能をもとに評価する。	定期考査と単元テストの結果，及び観察・実験レポートの内容，発表内容をもとに評価する。	観察・実験レポートの内容と授業中の態度，「学習計画&実行表」の内容，生徒による自己評価をもとに評価する。

4. 補足

1	教科書に準じた「書き込みプリント」を利用して学習を進める。
2	図表を文・文章に変換すること，ならびに，その逆も意識して学習する。
3	物理学や化学の基礎的な知識・概念とのつながりを意識して学習する。
4	計算技術・スピードの向上も意識しながら取り組む。
5	主体的に，周囲と協働して取り組む。
6	他者の考えを尊重しつつ，自分自身の考えをわかりやすく表現することに努める。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
理科	生物	3	理系選択	4

教科書	生物（東京書籍）
補助教材	フォトサイエンス生物図録（数研出版），セミナー生物基礎＋生物（第一学習社）

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物と生物現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な知識や観察・実験に関する技能を身に付けている。	生物と生物現象の中に問題を見いだし，見通しをもって観察，実験などを行い，科学的に探究する力を身に付けている。	生物と生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習内容（何を学ぶか），学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	3 編 遺伝情報の発現と発生 2 章 発生と遺伝子発現 5 胚の細胞の発生運命と遺伝子発現 6 発生現象と遺伝子発現の調節 7 動物の形と調節遺伝子の発現 3 章 遺伝子を扱う技術 1 遺伝子を増幅する技術 2 塩基配列を解読する技術	1 以下の①～③のサイクルを継続する。 ① 予習（10～15分） 教科書を，図表や写真等と照らし合わせながら読む。理解できない箇所にペン等で印をつけ，授業時に解決できるように準備する。 ② 授業（50分） 五感を研ぎ澄ませて取り組み，疑問点の解決に努める。板書事項以外でも重要な点はメモする（書き込みプリント冊子）。 ③ 復習（授業日＋週末） 問題集の問題を解き，理解度を確認する。不十分な点は，教科書や図録で再確認し，要点をまとめておく。
	5	3 遺伝子組換え技術の利用 4 遺伝子や細胞を扱う技術の課題 4 編 生物の環境応答 1 章 動物の刺激の受容と反応 1 刺激の受容から反応への流れ 2 ニューロンの興奮 3 興奮の伝導 4 興奮の伝達 5 刺激の受容と感覚	2 観察・実験 ※安全面に留意して取り組む。 (1) 実施前に目的を理解しておく。 (2) 予想や仮説を立てて臨む。 (3) 正確な操作を心がける。 (4) 実験データなどの事実を正確に記録し，表や図，文章に変換する。結果をもとに考察する。 (5) 「なぜそのような操作をするのか？」，「なぜそのような結果になるのか？」常に問いかけながら取り組む。
	6	6 中枢神経系での情報処理 7 効果器 2 章 動物の行動 1 動物の行動とは 2 刺激の受容と行動 3 学習のしくみ 3 章 植物の環境応答 1 被子植物の生殖と発生 2 植物の一生の出来事と環境の影響 3 植物ホルモンと光受容体 4 環境要因による発芽の調節 5 茎や根の成長と環境要因の影響	3 自主的に調べる 疑問点は，自主的に調べて解決に努める。以下，同様に学習を進める。

	7	6 気孔の開閉の調節と環境要因の影響 7 花芽形成と環境要因の影響 8 果実の形成と成熟のしくみ 9 器官の老化と脱落のしくみ	
2	9	5 編 生態と環境 1 章 個体群と生物群集 1 生態系からみた生物 2 個体群と環境 3 個体群の構造と成長 4 個体群の相互作用 5 種間の相互作用 6 生物群集の成り立ちと多種の共存	
	10	2 章 生態系の物質生産と物質循環 1 食物網と物質生産 2 生態系の物質収支と生態ピラミッド 3 章 生態系と人間生活 1 生物多様性 2 人間社会の変化と生態系 3 生態系の復元 4 人間は自然とどう付き合っていっていいか	
	11	問題演習	大学入学共通テスト対策・個別試験対策の演習を行い，復習する。
	12	問題演習	大学入学共通テスト対策・個別試験対策の演習を行い，復習する。
3	1	問題演習	演習を行い，復習する。
	2		個別試験対策の演習を行う。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，単元テストの結果，観察・実験の技能をもとに評価する。	定期考査と単元テストの結果，及び観察・実験レポートや発表内容をもとに評価する。	観察・実験レポートの内容と授業中の態度，「学習計画&実行表」の内容，生徒による自己評価をもとに評価する。

4. 補足

1 教科書に準じた「書き込みプリント冊子」を利用して学習を進める。 2 考査ごとに配布する「授業進度表」に基づき，「学習計画&実行表」を生徒自ら作成し，学習を進める。学習方法の①～③のサイクルを繰り返す。 3 図表を文・文章に変換すること，ならびに，その逆も意識して学習する。 4 物理学や化学の基礎的な知識・概念とのつながりを意識して学習する。 5 計算技術・スピードの向上も意識しながら取り組む。 6 主体的に，周囲と協働して取り組む。 7 他者の考えを尊重しつつ，自分自身の考えをわかりやすく表現することに努める。
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
保健体育	体育	3	普通	2

教科書	現代高等学校保健体育
補助教材	現代高等保健体育ノート ステップアップ高校スポーツ 2023

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能（運動）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の計画的，合理的実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに，目的に応じた技能を身につけている。	自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて，課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに，それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう，運動の合理的，計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか），学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1		1 体づくり運動 2 新体力テスト 3 領域選択 ネット型（バレーボール・バドミントン） ベースボール型（ソフトボール） 4 体育理論 3 単元 豊かなスポーツライフの設計 01 生涯スポーツの見方・考え方 02 ライフスタイルに応じたスポーツ	・「体育」の導入として，体ほぐしの運動や体づくりの運動，集団行動の基本的な考え方を実践から学習する。 ・自己の客観的な指標となる運動を測定する。 ・課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫し，他者に伝えることを学習する。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について，課題を発見し，よりよい解決に向けて思考し判断することを学習する。
2		5 体づくり運動 6 領域選択 ゴール型（バスケットボール・サッカー） 7 陸上競技（長距離走） 8 体育理論 3 単元 豊かなスポーツライフの設計 03 スポーツを推進する取り組み 04 豊かなスポーツライフの創造	・体づくり運動の行い方，体力の構成要素，実生活への取り入れ方を学習する。 ・一人一人の違いに応じたプレイを大切にし，互いに助け合い高め合おうとすることや，健康・安全を確保することを学習する。 ・ルールやマナーを大切にし，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にし，健康・安全を確保することを学習する。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について，課題を発見し，よりよい解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝えることを学習する。

3		9 領域選択 ネット型(バレーボール・バドミントン) ゴール型 (サッカー・ハンドボール) ベースボール型 (ソフトボール ほか)	・フェアプレイを大切にしようとする こと，合意形成に貢献しようとする ことや，健康・安全を確保すること を学習する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとに学習カードやスキルテストを実施して評価する。	ペアやグループでの話し合いや学び合う活動で評価する。	学習カードや健康・安全を確保できるようにする態度を評価する。

4. 補足

--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
芸術	音楽Ⅲ	第3学年	文系	2単位

教科書	Joy of Music（教育芸術社）
補助教材	MUSIC NOTE（九州高等学校音楽研究会）

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
一学期	4 ～ 7	・楽典1（音名・音程・音階・調） ・選択制表現1	・音名、音程や調号等の仕組みを把握し、楽曲の理解を深めます ・選択した各楽器の特性や音色を生かした演奏を目指します。
二学期	9 ～ 12	・楽典2（楽語・演奏記号・和声） ・選択制表現2	・各種記号や和声等を把握し、楽曲の理解を深めます。 ・選択した各楽器の特性や音色を生かした演奏を目指します。
三学期	1	音楽Ⅱの学習のまとめ	・学習内容のまとめをします。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習内容ごとの筆記テストや実技テストの結果等をもとに総合的に評価します。	学習内容ごとの筆記テストや実技テストの結果に加え，レポートや発表の場面等を総合的に評価します。	レポートの内容や授業中の態度（発言や練習姿勢等）等をもとに総合的に評価します。

4. 補足

- ①基本的な学習態度を身に付けましょう。
- ・授業開始に遅れないように，移動は速やかにする。
 - ・教材等の忘れ物をしない。 ・教材や楽器等を大切に扱う。
- ②楽譜の基本的な取り扱い方（読み方）を知り，的確に使えるように練習しましょう。
- *音楽系の進路を希望する者は，できるだけ早い時期から継続して専門的実技に取り組む必要があります。情報収集と準備が大切です。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
芸術	美術Ⅲ	第3学年	文系	2単位

教科書	高校生の美術2（日本文教出版）
補助教材	油絵の具セット，アクリル絵の具セット，スケッチブック

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 意図に応じて表現方法を創意工夫し，個性的かつ創造的に表している。	造形的なよさや美しさ，表現の意図と創造的な工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生成し個性豊かに発想や構想を練ったり，自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	多様な表現方法や美術文化に関心を持ち，主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか），学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
一学期	4	オリエンテーション 進路研究	個人の進路に応じて，進路実現に向けて取り組むべき実技演習内容を明らかにして，年間スケジュールの見通しを立てます。
一学期～三学期	4 ～ 1 2	鉛筆デッサンまたは木炭デッサン 平面構成／立体構成／静物着彩 表現研究 模写／模刻 資料収集 表現演習 ポスターデザイン／油彩画／塑造 ポートフォリオ作成	志望校や専攻の傾向に合わせた実技課題に取り組みます。基礎力を重点的に身につけます。 視野を広げるための様々な演習課題で自身に合った表現方法を模索し，実技課題への応用力をつけるとともに，弱点を補強していきます。 これまでの制作を振り返り，作品の写真や情報を整理し，自身の表現における魅力を示す資料としてポートフォリオを作成します。
三学期	1 ～ 3	志望校別対策	これまでの学習を実技試験において実践的に活用することを意識して，模擬課題に取り組みます。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークシートの記述，完成作品などをもとに評価します。	完成作品に加えて，アイデアスケッチ，活動の様子，発言の内容，制作中の作品などをもとに評価します。	ワークシートや活動の振り返りシートにおける記述，自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

以下に授業で取り組む課題以外にやっておいた方がよいことの例を挙げておきます。 ①作品制作と公募展への出品 ②形状・色彩記憶を意識したクロッキー ③視野を広げるためのスクラップブックング，芸術鑑賞 ④アイデアの幅を広げるためのドローイング ⑤自分自身の表現の長所や弱点を知り，それに応じた対策を練る 自分自身がどんなテーマやモチーフ，表現に感動しているのか，自分なりの見方・感じ方に自覚的になり，それらを制作に生かしていくことで個性的な表現を目指しましょう。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
芸術	書道Ⅲ	第3学年	文系	2単位

教科書	書Ⅱ（光村図書）
補助教材	

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式, 書表現の多様性について理解を深めている。 ・書の伝統に基づき, 作品を効果的に表現するための技能を身に付け, 表している。	書によさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり, 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え, 書の美を深く捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の創造的な活動に取り組もうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
一学期 ～ 二学期	4月 ～ 12月	1 漢字の書 ①はじめに 個性豊かな漢字の姿 ②篆書 ③隸書 ④草書 ⑤行書 ⑥楷書 ⑦創作する	・古典を鑑賞し, 書の美を味わうとともに, 美がどのような要素で成り立っているかを深く分析します。 ・古典の臨書を通して, 多彩な表現を学び, 技能を身に付けます。 ・古典の学習を生かし, 書体や書風に即した用筆・運筆, 字形, 全体の構成について創造的に構想し個性豊かに工夫して, 漢字の書の作品を創作します。
		2 仮名の書 ①古筆に学ぶ ②創作する 百人一首を書こう	・古筆を鑑賞し, 書の美を味わうとともに, 美がどのような要素で成り立っているかを深く分析します。 ・古筆の臨書を通して, 多彩な表現を学び, 技能を身に付けます。 ・古典の学習を生かし, 書体や書風に即した用筆・運筆, 字形, 全体の構成について創造的に構想し個性豊かに工夫して, 仮名の書の作品を創作します。

三 学 期	1 月 ～ 3 月	3 漢字仮名交じりの書 ①古典・名筆に学ぶ ②創作する	・名筆の鑑賞，古典の書風を生かした制作により，表現の幅を広げ，創作に生かします。 ・漢字と仮名の調和した字形，文字の大きさ，紙面構成，目的や用途に即した個性的な表現を，感興や意図に基づいて構想し工夫して，漢字仮名交じりの書の創作をします。
		4 篆刻・刻字 ①はじめに ②創作する	・印の歴史や多彩な印の表現について学習し，理解を深めます。 ・刻字について，刻し方や彩色の技能を身に付けます。 ・刻し方や彩色による表現効果を考え，感興や意図に応じて創造的に構想し個性豊かに工夫して，刻字作品を制作します。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実技活動の成果や，活動内での創意工夫について評価します。	実技活動の成果や，活動内での創意工夫，制作カード等への記述や発表等で評価します。	授業に対する姿勢，学習態度，自己評価，芸術文化への関心等で評価します。

4. 補足

実技活動が中心となります。粘り強く取り組み，さまざまなアドバイスを基に創意工夫して取り組むことができるかという点が大切になってきます。また，評価はすべて授業内で行われるため，毎時の授業を大切に取り組んでください。

毛筆だけでなく，硬筆（実用書）にも取り組みます。また，授業で制作した作品は，コンクールに出品したり，文化祭などで展示したりすることがあります。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
外国語	英語コミュニケーションⅢ	3	普通	文系5, 理系4

教科書	CREATIVE English CommunicationⅢ (Daichi Gakushusha)
補助教材	後日提示

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音声, 句読法, 連語・慣用表現, 文構造及び文法事項などの英語の特徴やきまりに関する事項を用いて, 実際のコミュニケーション活動等において活用できる。	【聞くこと・読むこと】 日常的や社会的な話題について, 必要な情報を聞いたり, 読んだりして, 概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図を目的に応じて捉え, 自分の考えをまとめることができる。 【書くこと・話すこと（発表・やり取り）】 日常的や社会的な話題について, 聞いたり読んだりしたことを基に, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章を話したり, 書いたり, 伝え合することができる。	【聞くこと・読むこと】 日常的や社会的な話題について, 必要な情報を聞いたり, 読んだりして, 概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図を目的に応じて捉え, 自分の考えをまとめようとしている。 【書くこと・話すこと（発表・やり取り）】 日常的や社会的な話題について, 聞いたり読んだりしたことを基に, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章を話したり, 書いたり, 伝え合おうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）, 学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	Lesson 1 Fast, Safe, and Efficient!	予習, 小テスト, 言語活動
	5	Lesson 2 Water for Life	予習, 小テスト, 言語活動 パフォーマンステスト(プレゼン)
	6	Lesson 3 Athletes as Human Rights Leaders	予習, 小テスト, 言語活動
	7	Lesson 5 Going Digital: What Does the Digital Age Bring?	予習, 小テスト, 言語活動
2	9	大学入学共通テスト対策・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
	10	大学入学共通テスト対策・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
	11	大学入学共通テスト対策・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
	12	大学入学共通テスト対策・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
3	1	大学入学共通テスト対策・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
	2	個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ペーパーテスト(RLW) パフォーマンステスト (SP, SI, W)	ペーパーテスト(RLW) パフォーマンステスト (SP, SI, W)	ペーパーテスト(RLW) パフォーマンステスト(SP, SI, W) 言語活動, 振り返りシート等の記述

4. 補足

R=リーディング，L=リスニング，W=ライティング，
SP=スピーキングプレゼンテーション（発表）
SI=スピーキングインタラクション（やりとり）

※ パフォーマンステストの具体的な評価基準は別途，通知する。

※ 母国語と同じレベルまでコミュニケーションがとれるようになることを目指して，毎日英語に触れる習慣をつけましょう。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
外国語	論理表現Ⅲ	3	普通	文系2, 理系2

教科書	EARTHRISE English Logic and Expression Ⅲ Advanced (数研)
補助教材	後日提示

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音声, 句読法, 連語・慣用表現, 文構造及び文法事項などの英語の特徴やきまりに関する事項を理解し, コミュニケーションを行う場面や状況に応じて, 適切に活用している。	【書くこと・話すこと（発表・やり取り）】 日常的や社会的な話題について基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章を話したり, 書いたり, 伝え合ったりしている。	【書くこと・話すこと（発表・やり取り）】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手や話し手に配慮しながら, 日常的や社会的な話題について, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章を話したり, 書いたり, 伝え合ったりしようとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）, 学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	Lesson1 Coming to Japan [Travel]メールを書く① Lesson2 Online Shopping [Shopping]メールを書く②	予習（本文を読む, 語彙の確認, 音読, リスニング, ライティングのテーマ設定や素材探し）小テスト, 言語活動
	5	Lesson3 Preparing to study abroad [Education]メールを書く③ Lesson4 24-hour stores [Economy]意見を述べる① Lesson5 Smart agriculture [Agriculture]意見を述べる②	予習, 小テスト, 言語活動 パフォーマンステスト （スピーチまたはプレゼン）
	6	Lesson6 Aiman, the household robot [Technology]意見を述べる③ Lesson7 Recipes [Food]イラストを説明する① Lesson8 A helping hand [Society]イラストを説明する②	予習, 小テスト, 言語活動 パフォーマンステスト
	7	Lesson9 International Science Fair [Science]申込書・応募書類を作る① Lesson 10 Future career plans [Career]申込書・応募書類を作る②	予習, 小テスト, 言語活動 パフォーマンステスト （スピーチまたはプレゼン）
2	9	大学入学共通テスト・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
	10	大学入学共通テスト・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
	11	大学入学共通テスト・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
	12	大学入学共通テスト・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
3	1	大学入学共通テスト・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
	2	個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ペーパーテスト (RLW) パフォーマンステスト (SP, SI, W)	ペーパーテスト (RLW) パフォーマンステスト (SP, SI, W) －	ペーパーテスト (RLW) パフォーマンステスト (SP, SI, W) 言語活動，振り返りシート等の記述

4. 補足

R＝リーディング，L＝リスニング，W＝ライティング，

SP＝スピーキングプレゼンテーション（発表）

SI＝スピーキングインタラクション（やりとり）

※ パフォーマンステストの具体的な評価基準は別途，通知する。

基本的な語彙力，文法・語法の知識が備わっている前提に授業は進行していきます。未定着な部分は文法・語法問題集や参考書を用いて，主体的に学習・復習をしましょう。母国語と同じレベルまでコミュニケーションがとれるようになることを目指して，毎日英語に触れる習慣をつけましょう。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
外国語	英語コミュニケーションⅢ	3	普通	文系5, 理系4

教科書	CREATIVE English CommunicationⅢ (Daichi Gakushusha)
補助教材	後日提示

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音声, 句読法, 連語・慣用表現, 文構造及び文法事項などの英語の特徴やきまりに関する事項を用いて, 実際のコミュニケーション活動等において活用できる。	【聞くこと・読むこと】 日常的や社会的な話題について, 必要な情報を聞いたり, 読んだりして, 概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図を目的に応じて捉え, 自分の考えをまとめることができる。 【書くこと・話すこと（発表・やり取り）】 日常的や社会的な話題について, 聞いたり読んだりしたことを基に, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章を話したり, 書いたり, 伝え合うことができる。	【聞くこと・読むこと】 日常的や社会的な話題について, 必要な情報を聞いたり, 読んだりして, 概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図を目的に応じて捉え, 自分の考えをまとめようとしている。 【書くこと・話すこと（発表・やり取り）】 日常的や社会的な話題について, 聞いたり読んだりしたことを基に, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章を話したり, 書いたり, 伝え合おうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）, 学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	Lesson 1 Fast, Safe, and Efficient!	予習, 小テスト, 言語活動
	5	Lesson 2 Water for Life	予習, 小テスト, 言語活動 パフォーマンステスト(プレゼン)
	6	Lesson 3 Athletes as Human Rights Leaders	予習, 小テスト, 言語活動
	7	Lesson 5 Going Digital: What Does the Digital Age Bring?	予習, 小テスト, 言語活動
2	9	大学入学共通テスト対策・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
	10	大学入学共通テスト対策・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
	11	大学入学共通テスト対策・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
	12	大学入学共通テスト対策・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
3	1	大学入学共通テスト対策・個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動
	2	個別試験対策	予習, 小テスト, 言語活動

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ペーパーテスト(RLW) パフォーマンステスト (SP, SI, W)	ペーパーテスト(RLW) パフォーマンステスト (SP, SI, W)	ペーパーテスト(RLW) パフォーマンステスト(SP, SI, W) 言語活動, 振り返りシート等の記述

4. 補足

R＝リーディング，L＝リスニング，W＝ライティング，

SP＝スピーキングプレゼンテーション（発表）

SI＝スピーキングインタラクション（やりとり）

※ パフォーマンステストの具体的な評価基準は別途，通知する。

※ 母国語と同じレベルまでコミュニケーションがとれるようになることを目指して，毎日英語に触れる習慣をつけましょう。